

富山市総合計画審議会第5回活力部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 第4委員会室

日時：平成18年10月24日（火）

14:00～15:40

1 開会

2 部会長あいさつ

長尾部会長あいさつ

先日10年先を見据えて大学のあり方について集会を行った。大学の世界でも20世紀の枠組みが通用しない。20世紀は何でも拡大するという前提条件があったが、人口が減少する枠の中で色々な出来事を考えていかなければならないという事が教育の世界でも言える。発想の転換が求められている。

活力部会として、基本計画というアクションの段階に近づいてきた訳だが、具体的にどのようにやっていくかという部分をしっかり各委員の皆さんと議論していかないと大きな枠組みは出来たとしてもこれからの10年の構想が敷衍化していかないと思う。よく言われるPDCAのサイクルをどのようにしていくか、活力部会に関して忌憚のないご意見をいただきたい。

3 議事

- ・総合計画基本計画（案）について

< 概要 >

（部会長） 総合計画前期基本計画（案）について説明をお願いしたい。

（事務局） 資料について説明

（部会長） 各委員のご意見をいただきたい。

（委員） 近い将来、北陸新幹線が開通し、富山空港の国際化がどんどん進む中、外国との交流が行われ、滞在型の広域的な観光を考える場合、ストロー現象にならないよう、富山地域における観光ポイントと連携し、広域観光を推進していくメニューが必要ではないか。リピーターになるような施策が必要。

（委員） 観光実践プランがないと具体的に進まないのではないかと。プランをどのように策定するのか、熱意にかかっている。

（事務局） 総合計画を元に、個々に具体的なものを取り入れながら進めてまいりたい。

(部会長) 心のもてなしを行うことによるリピーターの増加が必要。立山黒部アルペンルートの起点として開発していくか、観光資源のネットワーク化による滞在型とするか。

(委員) 広域観光推進について、金沢の場合は半径2km以内にほとんどの観光拠点が入っている。富山は拠点拠点には良いものがある。アクセスの問題もあるが、拠点それだけで魅力を出せるのか心配。富山には乗り物が多岐にわたる。乗り物も観光資源であるという付加価値として富山市を中心とした広域の観光として考えていけばどうか。

(部会長) 富山らしいネットワークをいかに表現できるか。他の県にない資源をどうネットワーク化していくかが重要。

「富山らしい」とよく使うが、コンセンサスを得ていかないと方向性がまちまちになるのではないかと議論してアクションに繋げる必要があるのではないかと。市民に分かり易い表現にできないか。

(事務局) 個々の事業を進める中でそれを実感してもらえるように繋げていきたい。

(部会長) 乗り物の多様性も富山らしいという表現になるのではないかと。

(委員) 富山ブランドのコンセンサスを得る事は難しい。かなり絞り込んでいかなければならない。はっきりしておかないと海外・国内でのPRは難しい。イメージが拡散しないよう、全体像を作らなければならない。

(部会長) 県でも推進しており、県との連携でも重なる部分がある。行動計画において、住み分けも必要。

(委員) 県でも越中料理というものを考えているようだが、海外で理解されるのか、苦労されると思う。

(部会長) こちらの思いが伝われば良いのだが。

(委員) 中国の方から見て、富山で魅力的なのは「緑と水」らしい。何に魅力を感じているのか立場を考える必要がある。

(部会長) 中国の人が言うには、山も7,000m級となると登山ではなくなる。3,000mだから登る。このことからそれぞれの立場で考える事が必要である。

(委員) 計画は施策を網羅的に盛り込んであると思う。目標指標設定の基本的考え方を示されたい。現状と課題と資料の図表が連動していないものもある。レイアウトを考えてはどうか。

(事務局) 指標の根拠を表記するかについては検討させていただきたい。10年先まで目標指標を持っているものもあるが、5年計画という事であり、5年先までの設定としている。レイアウトについても冊子にする際に出来るところはそうしていきたい。

(委員) 192頁 地域に根ざした農林漁業への支援について、地場産品の高付加価値化とあるが具体的イメージは。地域ブランドの申請は富山県で1件しかなかった。石川県は26件あった。富山県はものを加工し付加価値を付けて販売することが少ない。

(部会長) 高付加価値化について具体的に伝わるような表現が必要という事か。開発は進んでいるようだが、売るところまで至っていないのではないか。

(委員) 確かに石川県に比べると弱い印象がする。他業種交流の場をどう作るのが大事。そうすれば連携が生まれてくる。人材、特に若い発想力が必要である。農業と加工販売との接着剤的なものへの支援が必要。

(委員) 石川県は個々で動き、富山県は組織で動く風土がある。新産業についても言える。行政ではなく、民間の方の問題ではないか。

(部会長) 仕掛けや場を作る人、コーディネーターが必要。行政は後押ししていく。

(委員) 農業問題について、19年度から農業政策が大きく変わる。法人化が進んでいない地域に対する指導、アドバイザーが必要となる。

(委員) 県の農業改良普及員や農協の仕事だと思う。市が独自に行うには相当の予算と人が必要である。

(部会長) 県との調整が必要。

(委員) 農業が市場メカニズムに組み込まれていく中、国はそれに耐え得る政策を打ち出している。市の農林水産振興計画の中味も盛り込まれており、市としての一定の対応が示されていると思う。

190頁の4段落目にあるが、これからの農業は効率化の他、「環境や農村社会を維持しながら持続的な農業を一層推進する必要がある。」という事も入れていただきたい。また、指標の選定の基本的な考え方が必要。水産畜産関係の指標はないかも含め検討願いたい。出荷野菜等の栽培面積率の指標の具体的な中味は。

(事務局) 転作したもののうち、出荷しているものの割合。

(委員) 製造業の付加価値の指標について、富山県の数値は他県に比べかなり高い数値である。質的な指標を掲げることは良い事であると思うが、一般の企業であれば5年後の数値はどのように3, 4%程度の上げ方はしない。何割上げるといふうにしないと実現はしない。指標の設定の仕方はどうか。

(事務局) 県にあわせ、5%アップとした。

(委員) 企業自身の問題ではないか。

(委員) 企業の目標としては大事であると思うが、行政がどのような関わり方をするのか。

(部会長) 県は絶対値を書くのではなく、現状維持とか2倍を目標にするなどという表現としている。目標数値の表し方を検討されたい。

バランスの問題であるが、農業に比べ工業・中小企業の記述が少ないのはなぜか。

(委員) 関連して、事業所数が減り雇用が減る中、行政として具体的施策を盛り込む必要があるのではないか。

(委員) 統計的に見ると富山県は企業の集積度が高い。未来塾と連動してサポート体制ができれば面白い。ネットワークで新しい企業を育成するのか技術的支援で育成するのか、経営の勉強の中から育成を図るのか。様々な方向から立体的に支援していく必要がある。

(委員) 他のところの多くが第3次産業にシフトしていく事が一般的傾向である中、工業を振興していく施策を打ち出す事は大変良いことである。さらに付加価値を高めていく視点を盛り込んだ施策は打ち出せないか。

(部会長) 第2次産業の製造業になぜ特化するのかという背景や考え方をおぎなっていていただくとより分かり易い。196頁の指標で、これだけの新規事業が出来る事によって新規雇用が創出できるといった成果の捕らえ方もあるのではないか。その他、何かないか。

(委員) コンパクトシティを進めると農林業はどうなるのか。農村の家庭にかなりの影響が出てくると思う。分析しながら進めなくてはならない。

(部会長) 横断的課題である。

(委員) 施策として活力と潤い部会で相反するケースもあるのではないか。

（部会長） 拠点の周辺部が消えていく可能性のシミュレーションが必要。

（事務局） 以前まちに住んでいらした方をもう一度まちなかに戻す施策であり、拡散したまちを拠点拠点に集約しようとする考えであり、全ての人を中心に集める施策ではないと考えている。

（事務局） 優良農地を守るという観点もある。

（部会長） まちなか居住の実態はどうか。どのような人が入ってきているかが問題。

（委員） 170頁のガラスの街のイメージの定着化、質の高いガラス造形を振興していく施策の必要がある。

（部会長） 拠点化、生産と販売の一体化が必要。コンベンション誘致の県外へのアピールの仕方はどうなっているのか。

（事務局） コンベンションビューローが全国展開されている。情報の把握も行っている。かなりの数で開催されている。

（部会長） では、目標数値の設定説明、コメントと図表との関係の整理を見直していただきたい。他にご意見等があればメールなどをお願いしたい。
ご意見も無いようなので、本日の部会を終了させていただく。

4 閉会

（以上）